



アンネのバラ

吉高人権だより

2023年 2月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

変わる方がいい。いい方に変わるなら

英語科 二宮 晴美

私の考え方を大きく変えた学びを、みなさんにシェアします。

「二宮先生は、何でも否定するし、決めつけた言い方をする。わたしたちのことを理解する気はないんですね！わたしたちも、考えてバスケットをしてるのに！」
教員1年目の2学期、体育館で私がいつものように頭ごなしに怒鳴った直後、部員の不満が爆発しました。その後、何日も話し合いをしました。4月から数ヶ月経って、はじめて部員の意見に耳を傾けました。

私は、自分が正しい、もしくは自分の経験が正義であると、この時まで勘違いをしていました。つまり、自分には無い考えに聞く耳を持つようとしてきませんでした。結果として、たくさんの人を傷つけてきました。これではいけないと反省し、相手に寄り添ったつもりになったこともありましたが、それでもいつのまにか傷つけてしまっていたこともあると思います。

例えば、つらくて苦しいとき、その感情を寸分違わず誰かに理解してもらうことはかなり難しいと思います。それがいくら仲のよい人であってもです。つまり、それぞれ経験や考えの違う私たちが、ぶつかることなく常に理解しあえることは簡単ではなく、傷ついたり、傷つけたりしてしまうことはある意味避けられないとも考えられます。

しかし、だからこそ、わかろうとする気持ちを持ち続けることが大切だと考えます。自分が全て我慢するわけではなく、主張したり、尊重したりして、よい人間関係を作る努力をするということです。

自分の勘違いに気付いて、人の気持ちや、自分にはない考えをわかろうとする人間でありたいと考えられるようになって数年が経ちました。社会人になってからなので、気付くのが遅すぎましたし、まだ失敗もしていますが…。

みなさんが今から変われることは何ですか。

【DV 未然防止講座】



2月3日（金）、公益財団法人えひめ女性財団の愛媛県男女共同参画センターから石丸世志（いしまる よし）様を講師にお迎えして、「デート DV について考える ～自分も相手も大切にするために～」というテーマで DV 未然防止講座がオンラインで行われました。

DV（ドメスティック・バイオレンス）には、身体的暴力だけではなく、大声で怒鳴るなどの精神的暴力や、行動や外出を制限したりする社会的暴力など様々な形の暴力があること、そして、DV はけんかのような対等な関係ではなく、恐怖を手段としてパートナーを支配しようとするなどことを学びました。

また、デート DV にならない人間関係とは、対等でお互いを尊重し合う関係であり、そのためには、自分のことを大切にしたい気持ちに気づくこと、自分の気持ちを相手に「私はこう思う」と伝えること、自分と同じように相手を大切にしたい心を持つことが重要であることを学びました。

生徒の感想を紹介します。

いままで DV は殴る蹴るなどの暴力だけかと思っていたが、無視や束縛、勝手にスマホをチェックするなども DV だと知ることができてよかった。束縛などは愛情表現だと思ってしまいそうなので、知らないうちにしてしまわないように気をつけたい。

思ったよりたくさんの方が DV を体験していることに驚いた。もし身近に DV を受けている子がいたら、相談にのろうと思います。自分のことも相手のことも大切にしたいです。